



大会で歌った「ひよっこりひょうたん島」を取材時に披露してくれました。

昨年11月に東京都で開催された、「第30回全国童謡歌唱コンクール・グランプリ大会」に北海道地区代表として大人部門に出場、今年3月に西当別中学校を卒業した吉本美音さんにお話を伺いました。

母の歌声

保育士 だった母は、私が母のお腹のなかにいたころからいろいろな童謡を歌って聴かせてくれたそうです。また、生まれてからも母が参加していた歌の練習会場に連れられていたので、幼いころから童謡に親しめる環境で育ちました。

ターニングポイント

人見 知りだった私は母から離れることも苦手でした。そんな自分を変えるきっかけは、ある新聞記事で「オズの魔法使い」の公演に向けて新規団員を募集する内容でした。母の勧め

めもありましたが、私自身も大好きな動物の役を演じたいと思い小学2年の時に入団、中学1年まで続けました。歌や演技など指導を受けて「表現」することの楽しさを知りました。劇団での活動は、私にとって大きなターニングポイント(転機)となり、内気だった性格から人前に出ることが好きになるほど前向きに変わることができました。



劇団で「オズの魔法使い」のレッスンを受ける美音さん(黒色の犬役を演じています)

経験を生かしたい

歌唱 コンクール・グランプリ大会には、幼なじみの友人とペアで出場しました。審査委員、たくさんの聴衆を

歌うことが一番楽しい

よしもと みおん
吉本 美音 さん



グランプリ大会で歌う美音さん(写真左)

目の前にしましたが、楽しくリラックスしたなかで歌うことができました。本番に備えた練習では特にお腹から声を出すことを意識したり、原曲のとおり忠実に歌えるか何度も練習しました。本番では友人との息もピッタリと合い、練習の成果を発揮することができました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、大会に出場できたことそのものが私にとって良い経験となり、改めて歌うことの楽しさを感じることができました。将来は、声を生かす仕事をしてみたいです。例えば声優やアナウンスなどにチャレンジしたいと思います。

取材時の裏話ですが、大好きな楽曲を歌いながら高校受験に向けて勉強をしていたそうです。「その方が逆に集中できるんですよ」と笑顔で話す美音さん。本当に歌うことが大好きなんだと感じながら取材を終えました。

(3月8日取材)